



## 先が見えない？インフラ更新～「公共施設等総合管理計画」を読む(3)

第153号では和歌山市内の公共施設を今後も維持管理し続けるには、現存する施設の総延床面積を約2割カットする必要があること、それも様々な前提条件があり、課題も多いことを取り上げました。今回は、道路や橋、水道などの生活に密着したインフラについて考えます。



南海和歌山市駅裏手の「河西橋」。鉄道の橋を転用したこの橋も築100年を超えており、架け替えに向けた準備が進められています。

**施設よりやっかい?! インフラ資産**  
道路や橋、水道などのインフラ資産は暮らしてに密着していることから、公共施設のように減らすという選択がまず取ることができません。基本方針ではどのように考えているのでしょうか。  
まず和歌山市が管理する道路ですが、総延長に道路の幅員をかけた総面積は約578万平方メートル。舗装の耐用年数を15年として「公共施設更新費用試算ソフト」で推計したところ、今後必要となる1年あたりの更新費用は、過去3年間の舗装更新費用の平均よりも10億円高くなり、年間20億円をうかがう水準に達します。したがって、修繕を計画的に行うことによる長寿命化が必要とされています。

**水道管は 目に見えない**  
和歌山市内に敷設されている上水道管の総延長は約1500キロに及びますが、多くは1970年代半ばから整備されたもので、これらの更新費用が今後重くのしかかってきます。関連設備も含めたすべてを法定耐用年数で更新した場合、今後5年間で合計686億円もの費用がかかる試算されています。過去5年間の更新費用は合計95億円のため、実に600億円弱も不足することになります。  
なお、水道管については法定耐用年数を超えてもしばらくは使用できること、今後5年が経過してから20年程度は百億円単位の費用が必要な更新は発生しないことを見込まれることなどから、優先順位を精査し計画的・効率的な更新をおこなう必要があるとされています。  
下水道の整備面積は約2500ヘクタールですが、下水道事業は現在でも赤字となっているほか、既に法定耐用年数を超えて使われている下水道管も少なくないといえます。終末処理場の更新費用も見込まれ、公共施設と同じ考え方で必要な費用を算出すると今後5年間で300億円近い費用が必要となり、現実的ではありません。収入確保と歳出の削減のほか、効率的な修繕が必要としかいえない状態といえるかもしれません。

**3つの基本方針と 8つの取組み**  
これらの検討の結果を受けて、和歌山市の公共施設マネジメントは次の3つの基本方針を掲げています。  
①量から質への転換による市民サービスの向上  
②効率的で効果的な管理運営  
③新たな財源確保  
そのうえで、具体的な

1970年代半ばから整備されたもので、これらの更新費用が今後重くのしかかってきます。関連設備も含めたすべてを法定耐用年数で更新した場合、今後5年間で合計686億円もの費用がかかる試算されています。過去5年間の更新費用は合計95億円のため、実に600億円弱も不足することになります。  
なお、水道管については法定耐用年数を超えてもしばらくは使用できること、今後5年が経過してから20年程度は百億円単位の費用が必要な更新は発生しないことを見込まれることなどから、優先順位を精査し計画的・効率的な更新をおこなう必要があるとされています。  
下水道の整備面積は約2500ヘクタールですが、下水道事業は現在でも赤字となっているほか、既に法定耐用年数を超えて使われている下水道管も少なくないといえます。終末処理場の更新費用も見込まれ、公共施設と同じ考え方で必要な費用を算出すると今後5年間で300億円近い費用が必要となり、現実的ではありません。収入確保と歳出の削減のほか、効率的な修繕が必要としかいえない状態といえるかもしれません。



下水道の終末処理場には大型の機械が多数設置されています。日常生活に密着した施設であることから稼働停止は困難。改修・更新には多数の課題があります。

和歌山市の基本方針ではさらに踏み込んだ考察をしています。例えば南海電鉄の紀ノ川鉄橋は明治時代に架橋されたもので築100年を超えています。吹上にある真砂浄水場は築90年を迎えます。また、アスファルト舗装も15年を超えて使われている事例は多数あります。推計に使われたインフラの耐用年数はすべて一律に定められているため、伸ばすことが可能ではないかと、仮に橋が1000年使えたとすれば、更新に必要な財源不足は年間1億円に、アスファルトが30年使えたとすれば財源不足は年間2億円に抑制できると推計しています。もちろん、すべての

**道路や水道管等の更新は相当たいへん…**  
道路や水道設備を法定耐用年数ですべて更新すると圧倒的な財源不足…  
【和歌山市では試算によると今後5年間に…】  
道路の更新にはこれまでの2倍の費用が必要  
橋の更新にはこれまでの4倍の費用が必要  
上水道設備にはこれまでの6倍以上の費用が必要  
下水道は現状も赤字だがさらに年間60億円必要

- 法定耐用年数を超えても利用できる設備はある
- 防災や生活面などを考慮し優先順位を立てて計画的に補修・更新を実施
- 低コストによる補修・更新の技術等の研究
- 民間からの投資を呼び込む方法の研究
- …などにより、計画立てた施策を展開

**自治体が今後想定している主な取り組み**  
●各施設等についての利用状況などを把握し、計画的な補修・更新を実施  
●施設の配置について最適化を図るとともに、複合施設化などによる効率化、民営化などを実施  
●撤去で生まれた土地の売却や広告収入、ネーミングライツなどの活用による自主財源確保  
●すべての自治体で同様の施設を設置するのではなく、必要に応じて他自治体の施設を共同利用するなどの効率化を実施

**住民に求められること (一例)**  
●行政が支出できる費用には限界があること、少子高齢化・人口減少社会のもとではこれまでのような成長を前提としたまちづくりには一定の限界がある (場合によっては街をある程度縮小することを検討せざるをえない) ことを把握する  
●自分たちが住む街をどうやって次の世代に上手に引き継いでいくかを考える

**和歌山市公共施設マネジメント基本方針**  
全文は和歌山市ウェブサイトに掲載されています。  
<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/shisei/1009206/1010744.html>  
和歌山市ウェブサイトのサイト内検索に「1010744」と入力すると出てきます。

### みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- 教育文化のつどい講演会「今、守らなければならないもの。」  
国民不在の政治が続き、生活や未来に見通しが持てない状況で守らなければならないものは何かを考えます。  
日程 2月4日(土) 14:00～16:30  
場所 和歌山県民文化会館小ホール  
講師 山本浩之さん(フリーアナウンサー)  
参加費 500円(参加協力費)  
問い合わせ 教育・文化のつどい実行委員会(073-453-9180・和歌山第二支部内)  
備考 参加協力券は県民文化会館・和歌山市民会館・宇治書店・TSUTAYA WAY ガーデンパーク和歌山店・福岡書店で取り扱い。
- オープンデータソン in 和歌山市  
和歌山市内で初めてとなるマッピングパーティ&ウィキペディアタウンのイベント。  
日程 2月18日(土) 10:15～16:00  
場所 和歌山市民図書館3階ホール  
参加費 無料(昼食等は自己負担、要申込み)  
定員 25名  
問い合わせ・申し込み 和歌山県情報化推進協議会事務局(FAX 073-428-2688、info@widaj.jp)
- ひきこもり支援講演会  
ひきこもりの当事者やそのご家族、支援機関・団体職員、その他広く関心のある方など、どなたでもご参加いただけます。  
日程 2月18日(土) 13:00～15:30  
場所 かつらぎ総合文化会館AVホール  
講師 西隈亜紀さん  
参加費 無料  
問い合わせ かつらぎ町役場住民福祉課(0736-22-0300・内線2067)  
このほかの情報もたくさん掲載！「わかやまイベントボード」URL  
PC版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/>  
携帯電話版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/m/>
- ガールスカウト体験とお菓子作り  
クッキー作り・ゲーム・歌を楽しみながら、ガールスカウト活動を体験しませんか。  
日時 2月11日(土・祝) 13:30～15:30  
場所 和歌山市河南コミュニティセンター調理室  
参加費 無料(申し込み必要)  
問い合わせ・申込み ガールスカウト和歌山第6団(090-39